油豆行情（中曆正月十三日）

集市元豆六吊百至六三吊二百
紅糧價錢五吊四百文至五吊
集市共上車三十餘輛
邊毋共來七十餘輛
元豆六吊九百至六吊八百

仝	仝	同十一圓
仝	九舞入	同五圓
仝	仝	同四圓
赤味噌	大樽	同九圓三十錢
札幌麥酒	四打入	同九圓八十錢
蜂印香竄葡萄酒	仝	同二十二圓五十錢

鯛	入打	同十三圓五十錢
仝蒲鉾	仝	同二十三圓
筍	二打半	同八圓五十錢
梨	四打	同十一圓
桃	仝	同九圓五十錢
人形ミルク	仝	同十二圓五十錢

一中等塊炭	仝	十五圓五十錢
一仝　切込	仝	十四圓五十錢
澤龜	正味四斗四升入	十七圓
サツポロビール		九圓七十錢

（宅合名會社調査）

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Telephone No. 29. *Newchwang.*

告料 一ヶ月以上 一ヶ月以内 銀十五仙乃至十… 一長期連揭減價面議

發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社（電話二九番）

滿洲日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送費人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減
每張四百文

告示

關東總督府
陸軍大將男爵　大島義昌

出示曉諭事照得横濱正金銀行向於上海天津牛莊等埠專爲利便交易起見發行銀元鈔票所有納欵諸凡交易均用該票無異銀元通用極便商賈爲之暢通實於商務有益己爲人所共知也及至滿洲前爲兵燹之區我日本軍隊使用軍票是以該銀行暫行緩發者也日俄和平滿洲一帶全歸安靖商務亦將見其膺日之興旺我軍隊隨即逐漸撤退所發軍票亦應收回於是横濱正金銀行玆奉我日本政府允准一面再行發票一面置銀備換以便商務而資滿洲貿易之發達爲此示仰各色旗民紳商等一体知悉爾等嗣後即將該銀行所發鈔票視同軍票均須通用勿得懷存猜疑可也倘有奸議之徒謠言惑衆碍難通用以博漁利者一經查出立即從嚴懲辦決不寛貸各宜遵照無違特示

明治三十九年一月

告示

横濱正金銀行ハ從來上海天津牛莊等ニ於テ諸般取引ノ便利ノ爲メ銀ト引換ヘキ一覽拂手形ヲ發行シ來リシカ右ハ各種ノ公納其他一般商業上銀貨同様ニ使用セラレ流通圓滑ニシテ金融ノ便通ニ資スル處多大ナリシハ業ニ已ニ普ク知ル所ナリ曩キニ滿洲ノ地戰爭ノ區トナリシニ際シ日本軍隊ハ主トシテ軍用手票ヲ使用セシヲ以テ横濱正金銀行牛莊支店ニテハ一時一覽拂手形ノ發行ヲ見合ハセシモ今ヤ平和回復シ滿洲ハ玆ニ全ク安靖ニ歸シ商務モ亦正ニ舊日ノ旺盛ヲ見ントス而シテ漸次軍隊ノ裁撤セラルヽコトニ從ヒ軍用手票モ亦之ト伴フテ交換回收セラルヘキヲ以テ横濱正金銀行牛莊支店ハ再ヒ一覽拂手形ヲ發行シ舊ノ如ク商務ノ便ニ供シ益々滿洲貿易ノ發達ニ資スル所アラントス右一覽拂手形ハ日本政府ノ認許ヲ得テ發行シ銀貨ヲ準備シ隨時交換ノ用ニスルモノナルヲ以テ汝等人民ハ之ヲ信用シ軍用手票ト同一ニ公私一般ノ取引ニ受授通用シテ毫モ疑アルヘカラス若シ夫レ奸譎ノ徒妄ニ浮説ヲ流布シ流通ヲ妨害シ以テ利ヲ博セントスルモノアラハ立トコロニ嚴罰ニ處シテ決シテ假借セサルヘシ各遵奉シテ違フ勿レ特ニ示ス

明治三十九年一月

關東總督男爵　大島義昌

三井洋行

啓者 本行開創在中外通商各埠己有年歷所售棉布 火柴 煤炭 糖 海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷若

● 精製白砂糖新入荷物あり

倉庫部

今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候（電話百二十八番）

宅合名會社

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并一切雜貨其名譽己傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院内分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣衛標布手巾花巾東洋綴子洋陂鐘表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸

總司理人　田中賴之助謹白

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢彙代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寛大凡泊輪船装卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜棄置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷

總司理人　葉亮卿謹白

東永茂

横濱油房在營口創辦油榨生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之

正理事 播玉田　副理事 金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料糧棧堆棧寛大凡中外　士商賜顧者請認明招牌決不致悞

本主人敬啓

仁裕號

保發運各幫火輪船生意彙賣各幇洋什貨糧石等此佈

營口西大廟街路北警乙第十三號

恒有長

本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價值格外從廉克己并另設銀爐包鑄錦以應急需久爲　中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂盛

油坊買賣元荳荳油荳餅雜色糧石以及代客購辦雜貨布疋一概發行裝運沙宵焗船交易南北客商歷有年矣爲此謹白

開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

代代米烟公司

本行專售　日本官造紙烟　星象牌（斯達）櫻花牌（撻利）百合花牌（利利）均已馳名内外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻佳美適口而價值極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

玆爲軍用手票公定行市變動敝行販賣各種紙然雙鶴牌（隆沽來福）百合花（利利）櫻花牌牌（撻利）星象牌（斯達）無論批發零售均爲格外減價倘蒙賜顧以廣招徠

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
横濱　神戸　東京　長崎　大阪
倫勳　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話百八十番　支配人室　事務室

横濱正金銀行牛莊支店

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭

以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部　河岸通（電話五十二番）

洲日報各地賣捌所

滿洲日報廣告取次所
大連市穠岐町三百三十八號　日華運輸公司
大連市磐城町四十九番地　岡野新聞舗
奉天大南門内景祐宮胡同　全泰號
遼陽　遼陽倶樂部　谷口今朝太郎

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より

△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
妊婦の入院を諾す（取扱主任產婆大道しけ子）

院主　森繙
醫長　鈴木昌平

營口永世街（電話一五五番）

大日本政府特定　官製口付紙捲煙草　滿洲一手輸入發賣

江副洋行

營口永世街

今般小賣部を新設し官製刻煙草の小賣を開始致候間不拘多少御買求被下度奉願候

官製紙卷煙草及刻煙草一手販賣　江副洋行

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物産合名會社　牛莊支店（電話六十六番）

和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、襪子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價值格外從廉克己、凡　中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、

大阪府堺市熊野町　藤原謹啓

田中牛莊分莊

啓者本舗開設於東營口綏定門外經大阪丸三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舗代售格外從廉　賜顧者請光臨本舖面閲是幸

田中牛莊分莊謹啓

材木販賣　荒物　秋田洋行

營口永世街第一八四號（平野町）

本店　下關　秋田寅之輔商店

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久己馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨異價實以應各主顧局急之需誠本主人啓

雜貨卸商

在元神廟營口街

關東公司雜貨部

代理　道勝銀行

敬啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押款借款等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也

德商　瑞記洋行代理人謹啓

北京電報

●肅親王の露國視察 肅親王の直話なりとて某清官の語る處に據れば親王は蒙古視察を了へたる後ち西伯利亞鐵道にて露國モスコー府に赴き露國の對蒙古經營の魂膽を視察する筈なりと云ふ

●清露談判の不進行 清露談判は開議以來既に三回の會見を重ねたるも露本國との交通時に杜絶する爲めに進行大いに遲々たり

(以上二月六日發電)

倫敦電報

●委國の對佛戰鬪準備 ベネズエラ國ラガイラより來れる旅行者の報ずる所に據れば同國大統領カストロ氏は戰鬪の準備を爲し且つ佛國軍艦を發見せば直ちに發砲すべしと命令せり然れども同大統領は佛國の行動を以て全く脅喝に外ならずと思意せりと云ふ

●モロッコ會議と獨紙の所說 獨國コロンガゼット新聞は其筋の內意を受け社說に於て論して曰くアルジェリアに於けるモロッコ會議は戰爭に終るへしと思意するが如きは痴人の夢に異らず要するに同會議は失敗に歸し同國の現狀は維持せらるへしと

(以上二月五日發電)

雜報

●露人と蒙滿の採鑛 黒龍江將軍は此程北京政府に長文の電報を發したる由なるか今其概略を聞くに日露講和以來露國は同地方に於て極力經營し未た批准を經さるに先つ各處の鑛產を採掘し其間盡く軍隊を派駐して防守せしめ間ま或は自ら開墾を爲す等凡そ蒙古滿洲の兩地に於ける妨礙尠少ならす現に委員を派して露人と商議せしめ居るも尚ほ外部に於て法を設け之を阻止せられたし云々といふに在り

●清國の官制改革 過日政務處王大臣の會議に於て豫て噂ありたる官制改革の議を決したりとの風說あり今其內容を聞くに各省の官制は自今四司を以て之を行ふ事と爲し先つ布政使を改めて理財司と爲し按察使を改めて掌刑司と爲し巡警局を改めて警察司と爲し洋務局を改めて外交司と爲し督撫より之を統轄し各道各府各直隸廳州縣等は何れも舊制の通りにして其餘佐貳は各自裁汰せらるゝに至るべしと云ふ

●新伊總督の設置 清政府は從來新疆伊犂の兩地方に於て屢々露人との交涉事件を生し之か爲め各種の紛議を惹起するの虞あるを以て今回伊犂將軍を廢止し改めて新伊總督を設置する事に決し之に新疆巡撫をして萬般を協力せしむる計畫なりと云ふ

●濤貝勒の日本行 濤貝勒其他の各貝子が日本へ游學せらるべき內定ある由聞及べるが今回愈々兩宮より御許可ありたる趣にて貝勒は三月を以て北京出發日本に赴かるべしと聞く

●戰時稅と政府黨 本期議會の重要問題たる非常特別稅繼續案に對し政友會側の見込によれば憲政本黨及ひ政交俱樂部が同案に反對すると假定するも政友會及び大同俱樂部は約二百二三十名の多數を以て本期議會を通過すべしといへり

●青年集會取締 袁世凱は清國青年輩が血氣未だ定まらざるに政治熱に動かされ革命に雷同するを憂へ日本の政社法を參酌して其管轄內にては青年の結社集會を取締り五人以上の集會は三日以前に其筋に屆出づべしと戒飭したりと

●露清銀行神戶支店開店期 同行神戶支店は去る一月中開店の筈なりし處諸般の都合により延期し二月上旬頃開店する由

●牧野公使の歸朝期 墺國駐剳公使牧野伸顯氏は來る二月十二日頃伊國ゼノア港出發の日取なる由なれば其着京は三月下旬なるべしと云ふ

●蒙古王と日本商品 目下北京に滯在中なる蒙古各王か歸蒙の土產として例年弓箭を買ひ入れつゝありしも今年は何れも銃砲を買ひ入るゝもの多き由なるが其外最も買入多きは日本雜貨なりといふ

●英國の繪葉書特例 歐米に於ける繪葉書の流行は近年其の極に達し裏面は全部繪書を以て埋め書信を書くべき餘地なきもの其數少からさるより此程英國の郵便局にては特に新例を開き斯かる繪葉書には表面の名宛面半部丈け書信を書くも差支なしとの特例法を發したり尤も獨墺露佛白伊其他の諸國に對するものに限り日本及び南米等には未だ適用せざるものなり

●篤志英人表彰 熊本に於て我癩病患者に盡力せし英國人ニス、サンナ、リ、ベル氏に對し今般左の通り表彰の御沙汰ありたり

英吉利國 ニス、サンナ、リ、ベル

夙に慈善事業に志篤く明治二十三年其の國傳道會社の職を受けて本邦に渡來し熊本市本妙寺に遊ひ路傍に乞丐せる癩病患者多數なるを認め惻隱の心を起し遂に此等救濟を企圖し爾來百難を排し義金を募り經營數歲熊本回春病院を創め次で會社の囑託を辭し專ら力を醫治擴張に盡し既に其患者を收容する者八十六名財資を費す凡五萬餘圓其の出張所を設けて醫治せし者前後四百餘人の多きに及ぶ其の成績著明なりとす依て明治十四年十二月七日勅定の藍綬褒賞を授與し其の善行を表彰す

●淸獨議訂條約 獨國の山東撤兵に關し嚮に淸國との間に議訂せる善後條約は總べて五欵あり今之を譯報すると左の如し

第一欵 膠洲の獨國兵は此の件畫押の後即時全部の撤退を行ふと

第二欵 高密の獨國兵は此件畫押の後即先つ四分の一を撤退し兩個月內に於て再び四分の一を撤退し其餘の兵隊は再び兩個月內を限り全力を以て靑島の兵房馬棚を急造し以て期限內に於て全部の撤退に便にす急速なれば愈妙なるも若し兩個月內に於て造竣する能はさる如きは竣工に至るの時須らく全く撤退を行ふすべし再び期限を展ふるを得

第三欵 此件畫押の日より起算し膠高の獨兵は撤竣するとせざるとに拘らず環界內鐵路は全く淸國に歸すべきものとす地方官及巡警官巡防保護を爲し並に巡警官より巡隊を酌派し多さに至るも二百四十名站を分て勻駐せしめ一切事宜均しく環界外鐵路巡警章程に照らして辦理す又膠州城附近地方に於て巡警辦事公所一處を設立し巡隊を派駐し多きは一百名に至る以て輪淮警換鐵路を保護地方彈壓の用を爲すに便にす淸國如し該地內に在り兵餉籌辦兵法等の事あるが如きは仍膠澳條約に照らして辦理す

第四欵 獨國膠高地方に在りて修する所の各項工程兵房馬棚操場馬路水管等の如き及以上各處使用する所の地所造くる所の房屋及房屋內外附屬各件計原價銀元四十九萬六千三百八十八元四角八分內淸國に代付すべき地租五千元又歲修等項二萬一千百八十八元四角八分を將て分年遞減を爲し又格外通融議減七萬元を除くの外が即賣價四十萬銀元を以て全部淸國に賣渡す自行管業別に契約を立つ所有房價膠州兵房交付の日より起算し兩年內分つて四期と爲し悉皆交付を了するものとす再此項房屋淸國より買戾の後留めて地方公用と作し並に學堂等の用に添設す

第五欵 如し獨國にして約に照し行軍等の際膠高地方を經營住數日に渡るが如きば當に二週間前に於て預め先つ通知すべし餘閒の處を將て借住するも並に錢を取らす以上條欵淸獨文に照繕校對し各四通を作り相互の語意相符するや否やを簽定し後淸獨文を以て各兩分之を所有するものとす

●鐵嶺通信 二月二日 筆山生

▲鐵嶺の近情 屢報せる如く女人禁制の當地は依然靜平に屬し隨て邦人の入り込むもの尠なく最近調査に見るも居住營業者二百余旅行視察者二百六十酒保商人を合するも六百に達せず各軍部隊の凱旋は愈々進捗して剩す處僅かに〇箇師團に過ぎず夫れすら歸還を眼前に扣へて目下整理中にあり各師團物資の購買も自から中止の姿にして以前注文せし分すら受入を拒み其地の當込み商人の送致せし各種商品甚多額に及び遂に滿倉を目當に之れが購入を申込むもの多く加之商埠の不景氣に連れて酒保用品なる酒菓子雜貨の類亦續々到着せるもの各所山積せるありと雖も全く守備の狀態に復すべきは月餘を出でさる今日に在りては酒保并に一般商人其持前の始末にさへ苦み居る際とて彼等の如何に投賣せんとすとも當用品の外絕へて之等の商品に手を出すものなく六百の生靈手を拱ねて女人解禁沈衰挽回の日の來らんを希はさるものなき悲境に沈淪しつゝありて中には口を極めて軍憲を非難するものあり或は各方面に解禁運動を行ふなど在嶺邦人の運命は一つに此問題によりて解決されんとするの有樣にて此儘永く現狀の持續を見ば解氷期と同時に飲用品食糧品の如きは擧て腐敗に歸すべく一般商人は茲に全損の悲運に陷るべきは必然なれば其心情實に憐むべきものあり

▲奸商と鐵道輸送 各部隊付屬の酒保なるものゝ名義を以て巧みに若干の貨車を借受け之れに巳れの商品を積載し無賃輸送を爲すもの今猶尠からず故に當地の商品中往々大連營口に比し殆んど同額のものあり酒保商人にありては各々人員を特派して營大兩地に仕入るもの多く其入費も隨て僅かならさるべければ酒保に於ける賣品は却て比較的高價にして其不平均は到底他の市場に看る能はさるの現象なり

▲法庫門と軍政 同地に第三軍司令部の置かれてより直ちに軍政署設置せられたることとなるが既に凱旋せる今日地方保安上猶軍政旅行の必要は認められ鐵嶺軍政支廳を設置し昨日事務の引繼ぎを了し部員を簡派して執務せしむることゝなれり

▲鐵嶺商品陳列館 川崎軍政官の主管にかゝる陳列館創設の準備は着々進捗し內地より出品の申込續々あり靜岡、名古屋、京都、大阪、兵庫其他數縣よりは出品陳列の坪數さへ通知し來り隨て廣大なる面積を要すべきを以て軍政官は適當なる家屋設定につき苦心の末舊第三病院の全部を之れに充つることゝなり不日室內の配備に着手すべく開館は遲くも三月上旬頃なるべし

▲急進軍の北往 奉天以北に婦人の居住旅行を許可せさる今日に於て我邦人たる姉妹は續々奉天に集中しつゝあるを聞けるが十二月邦人の一部敵狀偵察の爲め長春吉林の方面に赴ける結果にや昨北來人の報する處によれば其娘子軍は先月中旬既に寬城子に入り盛んに挑戰を試み居り猶續々增加しつゝありて今日の模樣にては或は長驅哈爾賓に入れるものあらんかと想像さるとあり

▲昌圖と昌圖公司 同地在留の邦人には昨年軍政署設置以來計畫する處あり平和に伴ふ實業戰に對する方畧として大なる團体經營を尤も必要適切なるものとし日淸人合同の一會社を創設して之れに各種の利權を獲得せしめ以て昌圖邦人の基礎を固めしめんとせる結果昌圖公司なるもの〻創設を見るに至れり同公司は始め資本金四十萬圓となし同地卿紳を勸めて應募せしめしが申込多數にて直ちに全抹金に對する保證金の拂込を了れり其事業とする處は昌馬間輕便鐵道炭礦農業倉庫旅館依托販賣等重なるものにして猶他に社會の有象を擧げて昌圖に邦人の經營せんとする處を行はんとするにあり第一着手として現に馬仲和に淸人の假營せる滿洲鉄道停車場地內の旅舍は取拂を命せられ河北に移轉するの止むなきに至れり新たに昌圖に居住營業を爲さんとするものは勢ひ之れに賴らさるへからず會社は邦人の爲めに拾萬圓を增資して之れに賛加せんとするものを勸迎するの門戶を作りあり相携へて北滿洲に活動せんとすと云ふ其社長は松本某にして長く淸國臺灣各地にあり社長以下幾何の人員を有せるやを知らずと雖も目下在留營業者としては一戶の酒保のみなるを見れば其網羅せる人員も淸人を除きては甚僅少なるべきを信ずと一歸客は語れり

●滿洲各地の大豆及高粱 昨年來各地に於ける大豆及高粱の在荷を調査したるに左の如し

通江子	大豆十萬石	高粱五千石
鉄嶺	仝 十一萬五千石	仝 一萬二千石
開原	仝 五萬石	仝 八千石
新民屯	仝 九萬五千石	仝 一萬八千石
奉天	仝 三萬五千石	仝 七千石
遼陽	仝 四萬石	仝 二萬三千石
田莊臺	仝 二萬石	仝 五千石
蓋州	仝 一万二千石	仝 三千石
營口	仝 十八万石	仝 三千八百石
錦州	仝 三万石	仝 八万石
義州	仝 三千三百石	仝 二万四千石
寧遠	仝 一万五千石	仝 二万千石
中後所	仝 四千六百石	仝 二万二千石
廣寧	仝 二万千石	仝 一万七千石

●商業學校の開學 營口商業學校及瀛華實學院は冬季休學中なりしが愈々明二月八日より開學する筈なり尙新築中の校舍も既に落成を告げ諸般の設備も整ひたれば追々盛大に爲るべし又日本人夜學部も添設せらるゝ由なれば在住子弟の爲め非常に便利ならん

●日本人會評議員會 本日午后六時より日本人會評議員會を開催する由當度議案は總て秘密案のみにて自然公衆の傍聽も禁ずと云ふ

●三井支店長就任披露宴會 既報の如く三井物產會社牛莊支店長井上泰三氏の催に係る披露宴會は一昨五日午后七時よりアッセンブリーホールに於て開かれたり招待に應じて參會せるは軍政署員領事館員將校及在住官民の重なる人々六十餘名なり開宴酒三行井上支店長起つて挨拶を爲し瀨川領事の答辭あり三井洋行員一同は座間に奔走し數十の藝妓仲居は酒を侑めて興を添へ一段高き舞臺に於て第三樓金城館日本館高砂の選拔き藝妓の手踊りありて中々盛會なりき

●滬友會例會 去る四日午后五時より上野氏宅に於て開會す會するもの片山松倉小泉小鎚等十數名にして先づ三澤信一氏の滿洲利源調査に關する談語あり終りて牛鍋を突つゝいて談笑し交情を溫めたりと云ふ

●電話料滯納に就て 文明の利器なる電話が我營口在住民に多大の便益を與へつゝあるは明かなる次第なるが現在の加入者は百六十七名にして內外國人十五名淸國人二十四名邦人百二十九名なり尙今後續々加入者あるは必然なれば當局に於ても其設備を爲し交換手の募集器機の買入等に着手せられ居るなり然るに茲に要ふべきは近來電話料滯納者の多きこと是れなり一月中に納入すべきものにして今日まで滯納しつゝあるもの四十七名の多きに達せり僅々五圓の電話料なればマサカ故意に滯納するものに非るべく必ずや失念か若くは不在等にて斯る始末に及べるならん滯納者は此際猶豫なく納入せらるゝこそ望ましけれ因に云ふ電話器の故障破損等あらば一報次第係員出張の上修理改善する由なれば加入者は遠慮なく通報せらるべしと

●藝妓仲居周易判斷 朴堂老

祇園閣 お新(ツ、き)

本名小木曾シム(明治八年一月二日生)

そこで又元の巢にエンヤラヤット腰を据えさつしやつたお前さんは兼て今迄でに鍛えた腕にヨリをかけて暫らくは誰彼の容捨なくセツセと稼い 御座らつしやつたがそのうちに角帶に前垂掛けと云ふ意氣な商人さんの園木とか云ふお方のお目に留まりお前さんはその人の寵愛を受けさつしやつて終にチン〳〵鴨の差向ひで、お面白お可笑う此せち辛ひ浮世を暮し其上に樂み半分にお前さんの手馴れて居る茶屋とか置屋とか云ふ誤娼賣を今度は反對に女將となつて始めて居たが悲しいかな少しお尻の暖まるにつけお前さんは根が水性の萍や今日は向ひの岸に咲きで、何時しか大事の弗旦の目を忍んでの內職稼ぎ人もあらうに落語家の三番叟とツイ乙な交はりを結び夫れが弗旦の眼にとまつたのが運のつきじや、コリヤやいお新縁切つた、どをなと勝手にしあがれと今迄の御寵愛とは、うつて變つたあいそづかし其餞別が大眼玉と肱鐵砲今更ヤイノをきめ込んで、わたしが惡くばあやまりましようがなんて手管の數をつくしてもそうは問屋でをろしくれず是非も泣く〳〵あきらめたのはよかつたが、日毎に落ゆく人氣は兎角萬事が左り前、サアさうなると何が扨て根のなき花の浮草じや、是も誰ゆゑ三番叟ゆゑエゝうらめしい口惜しなんテ飛んでもない所へ理屈をつけ是さへ緣の立小便で、とを〳〵京にも居たゝまらず一層の事支那へでも渡り以前に優る大紳士を見事手玉に取て投げいでやケチ臭い京男に面當と渡りをつけたのが昔馴染の辻徳(今の祇園閣)の女將が營口に娼賣をして居るのを、もつけの幸と昨年八月末にてちらへ來たで御座らうがな何んと愚老の天眼通は百發百中外れつこは無からうがな(まだ〳〵)

●料理店の悲境倍々甚し 去る一月十日より二十日迄の各料理店揚り高の非常に不況なることを報道したるが第三旬即ち廿日より卅一日迄の各店揚り高を見るに倍々悲境の模樣にて自然廢業又は休業の料理店多く昨夏日數十軒の頭數も今は七十餘軒に減少し加之其內にも每夜店出をなすも登樓客一人もなく俗に云ふお茶挽店二十余軒の多きに達し實際痛我慢を張り營業を繼續しつゝある店は五十軒內外にて其寂寞たる事到底形容すべからず今例に依りて揚り高の最も多き家を擧ぐれば此期間は一千圓以上の揚り高を有する店は僅々三軒にして即ち金城館の二千二百五十三圓日本館の一千百七十六圓卅八錢祇園閣の一千〇四十八圓等なり永く大關の位地を占めたる第三樓は貧棒神に下りたり以て一般の悲境倍々甚しきを推察するに餘りあり

●でたらめ草 ▲△△△ 東京では一時廂髮が女學生を標榜すといふ位の大流行であつたが今は却て衰へ氣味で島田銀杏返しが復興して廂髮は唯だおデコ譲の專有と爲つて居るさうぢや流行は繰返すといふが元來廂髮のはやつたといふのが間違であつた(△△坊)

汽車發行

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝幇子	上 六、〇〇	上 九、五七
營口至山海關	上 八、二〇	下 六、〇〇
山海關至唐山	上 一二、一八	下 六、二〇
山海關至天津	[illegible] 五、〇〇	下 五、五五

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上 八、〇〇	下 六、二〇
北京至天津	上 一一、二〇	下 五、四一
北京至[illegible]	下 二、四〇	下 八、三〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間 下り列車

驛名	發着時刻
大連 發午前	九、〇〇
金州 着	一一、〇九 發 一一、二九

上り列車

驛名	發着時刻
遼陽 發午後	三、五〇 發 四、五五
大石橋 着	一〇、三二 發 一一、三五
金州 着翌前	二、二〇 發 三、一〇
大連 着	五、三二

大石橋營口線 上り列車

旅順 發午後 二、〇三 大連 着 五、三二

下り列車

大石橋 發午前 [illegible]

天氣

營口地方 自昨日午後六時至本日午後六時

[illegible]

社告

東北凶作地窮民救恤義捐金募集

東北三縣の凶作は國家近來の大慘事たり之を天保年間の大饑饉に比するに優るも讓らず各官廳及ひ地方有志は夙夜救濟の道を講ずと雖も窮狀日に益々甚しく翅に地方自治機關の之が爲めに停止し國民教育の之が爲めに沮滯せるのみならず幾十萬の窮民坐して死を竢つ能はず山に木皮を拾ひ野に草根を掘り僅に露命を繋ぐに至る而も今や時冬天に會し饑寒交々至りて復た食と衣とを得るの道無く父母妻子東西に流離して乞丐と變じ餓莩路に横はるの慘劇將に臻らんとす是に於てか我內地に於ては東北二縣の舊藩主貴衆兩院議員等胥謀り東北三縣救恤會なるものを起し以て是等窮民振恤の方法を講じ在京各新聞通信社亦其擧を賛して均しく義捐金募集に着手せり我社固と涓埃の力敢て當るに足らずと雖も其慘狀を聞くや既に久しく同情の念轉々已む能はず遂に聲援を我同業者に致し以て幾多窮民が焦眉の急を救はんことを期す江湖の君子庶くは本社の微意を諒とし應分の義資を投せられんことを其規定左の如し

一、義捐金額は一人拾錢以上とす
一、受付期限は二月二十八日迄とす
一、義捐金は直に本社に送附せられたし
一、本社が受付たる義捐金は每日正金銀行に保管預入を爲すべし
一、期限後は之を一纏めとし東北三縣救恤會に送附し其配分方を托すべし
一、義捐者人名は本紙廣告欄に掲載し受領證に代ふ

明治三十九年二月七日

滿洲日報社

雜報

●戰時の事業放資

戰時中は民間の生産資金は多く戰費に吸収せられ隨て各種事業會社の興起を抑制し又幾分放資上のにも影響を及ぼさゝるを得さるへし即ち其筋の調査に係る三十七年の農業、工業、商業及び水陸運輸會社の放資狀況を見るに先つ其社數に於て前年に比し左の如く減少したり

	卅七年	卅六年
農業會社	二三八	二四九
工業會社	二、三八四	二、四四一
商業會社	五、六〇九	五、八五五
水陸運輸會社	六八二	七〇二
合計	八、九一三	九、二四七

即ち以上各種事業會社は年々多少の增加を來たしたるに當年は前年に比し何れも其數を減せさるなく總して前年の九千二百四十七に對し卅七年は八千九百十三社を示すに過ぎす尤も此中には會社合同の爲めに其數をしたるもの尠なからさるへしと雖も亦戰爭の爲めに解散の不幸を招きたるものあるに因る就中資本金一萬圓以下の小會社の如き最も然りとす而して右各種會社の拂込資本の狀況を見るに左の如し

	卅七年	卅六年
農業會社	三、二三〇、八五七	三、一九六、八八六
工業會社	一六二、八三六、二〇三	一七〇、三四六、三四〇
商業會社	四五五、八二三、六一三	四五一、六八〇、〇二八
運輸會社	三〇九、四一二、四七三	二六二、三八二、九三六
合計	九三一、二九二、一四六	八八七、六〇六、一九〇

即ち會社數の減少に反して拂込支本は前年の八億八千七百萬圓に對して九億三千百萬圓を示し四千四百萬圓の增加を來せるは意外の感なきにあらさるも既設會社の拂込は之を中止すると能はさるに因るへしといふ

●暹羅航海の急務

東邦協會に於ける稻垣駐暹公使の談によれば磐谷府香港間及び磐谷府新嘉坡間の航路は總て獨逸汽船の獨占となり往々擅横の嫌あるより清國人の如きは頗る之を不便とし昨年日本郵船會社が日暹航路調査の爲め社員を派遣したる時の如きは清國人のみならす歐米人も非常に之を喜び清國人は若し日本か航路を開始したる場合は每年必す百六十万擔の米を誓て積載すへしとて熱心に該航路開始を希望したる位なるか日暹兩國の關係は益々親密にして日本より香港新嘉坡等の自由港を經て暹羅に輸入せらるゝ貨物は年々五百万圓以上に達し暹羅より日本に輸入さるゝものは百万圓以上に出て殊に此頃大阪の澁川某か暹羅米の臭氣除却法を發明したるにより今後は暹羅米の輸入增加すへく暹羅の原料品を日本に輸入し日本より工產品の輸出を圖らは兩國の貿易は大に增進すへく之に就ては暹羅航路の開始は極めて必要なりと云へり

●韓國外國貿易の盛況

韓國貿易は主として仁川港に行はれ昨年の貿易額統計に依れは全貿易額の五割五分は同港の占むる所となり之に次くは釜山にして二割四分を有し鎭南浦は一割を占め元山之に次て五分、群山の四分を有し殘餘の五分は木浦馬山浦に城津の取扱に係る而かも元山及城津の貿易は近年長足の進歩を現はしたり最も昨年は甚たしき進歩を示さゝりしもこれ全く其地位韓國の東海岸に位し時局以來屢々航通の杜絕したると浦鹽艦隊の出沒して邊境を窺ひたる結果貿易額減少せし次第なるか既に海上危惧の拂拭せられたる本年に及ては再び好況を恢復す可きや疑を容れす次に鎭南浦は昨年に至り輸入貿易の著しく前年の二倍以上に達したるは要するに曾て平壤并に其以北の需要に供す可き輸入貨物は之を仁川より平壤に輸送するの習慣なりしも昨年に及て漸く其不便を感し之を直接大阪より鎭南浦に輸入するに至りたるに基くものにして將來此關係に於て同港の輸入貿易は益々發達す可きものなりと思はる要するに韓國の開港將來港灣の改良設備の關係に依り其發達を異にす可きも現今の狀態に於ては恰かも本邦の開港が各輸出入の特色を有するが如く輸入貿易港としては仁川釜山元山及鎭南浦を擧くるを得へく輸出港としては群山は錦江の沿岸にて農事經營の盛なるあり米穀の輸出を以て立つ可く木浦は米穀及棉の輸出を以て特色とす可く馬山浦及城津に至りては未だ狀況の著しきものを認めさるも既往の實績に徵すれは其輸出は遙かに輸入を超過するものゝ如しとなり

●大阪港の清韓貿易

一昨年中大阪港輸出入は未曾有の盛況を呈したるが其大部分は例の通り清韓貿易の旺盛に基くものなり即ち昨年の輸出商品價額總計五千五百九十三萬八千圓中清韓へ輸出せしもの五千四百十二萬一千圓を占め輸入商品總計千八百四十九萬六千圓中清韓より輸入せしもの七百六十萬五千圓にして輸出入の關係稍異れるを見る可し其昨年比較左の如し

	昨年中 圓		前年比較增減 圓
輸出品價總計	五五、九三八、二〇八	增	二五、一四七、九五五
內 清國	三五、〇六二、六五二	增	一八、八三五、九四二
韓國	一九、〇五九、一九二	增	五、三三一、〇四四
其他	一、八一六、三六四	增	九九〇、九七一
輸入品價總計	一八、四九六、四三六	增	一、五三九、八三一
內 清國	四、八四七、六四八	增	二、三一四、三四六
韓國	二、七五八、六九三	減	七三一、六七
其他	一〇、八九〇、〇九五	減	四二、八一八

即ち輸入に於ては清國を除くの外韓國及び其他の國に於て何れも減少したり

●本年の浦塩航路

本年に入りて浦港への初航船は神戸日清貿易商會扱ひの四國丸(一、四〇四噸)の一月九日神戸を出帆したるに在て積荷の種類は相變らす飮食料品雜貨等なりしが一時に比して出貨模樣稍減退の傾きを呈するに至れり而して運賃には大体に於て變はらざるも稍々下向の兆ありて先づ十圓內外の見當なり浦塩に於ける昨今の氣温は零度以下廿度乃至三十度にして從來の入港口なる西口は目下航行至難なるも東口の危險は餘程排去せられ碎氷船を用ゆれば自由に入港し得べく又同商會にては本年の解氷期を俟つて二隻の汽船を配して定期航海を續行せん計畫あり目下同航路に從事せる神戸清商五十二番東源號のラブン号は引續き同航路に就く模樣にして此外解氷後は日本郵船會社の目下元山津止めの航路を延長復舊して城津及び浦塩に定期航海をなす筈にて大家商船、其他社外船にして浦塩本邦間の航路開始を計畫するものあれば本年浦港の解氷後は同港への航海は著しく便利を加ふると共に運賃の低落を見るに至るならんと云ふ

●旅大殘留財產調查と渡航者規則

旅順大連其他關東總督管轄內各地退去の際同地に殘留したる私有財產の所有者又は其代理人にして同財產の調查處分又は搬出のため渡航するもの、取締に關し關東總督は去二十一日左の取締規則を公示せり

殘留財產調查の爲渡航者取締規則

第一條　關東洲其他關東總督管轄內各地退去の際同地に殘留したる私有財產の所有者又は其代理人にして陸軍省の渡航許可證を携帶し大連又は旅順に渡航する者は本規則に依り其の財產の調查、處分又は搬出を爲すことを得

第二條　渡航者中旅順に財產を殘留したる者は同地民政支署に、其他の各地に殘留したる者は大連民政署に對し到着後二十四時間內に本人及伴行者の國籍氏名、年齡、職業住所及其宿所並渡航の事由を記載したる書面に陸軍省の渡航許可證寫を添へ屆出つへし

第三條　渡航者は大連又は旅順市內に滯在すへく財產調查上市外に出つるの必要あるときは民政署又は民政支署の許可を受くへし

第四條　退去の際保管者を定めす殘留したる私有財產にして軍衛に收集保存しあるものは其所有者又は代理人に於て本規則發布の日より八箇月以內に同財產の交付を願出つる者に限り民政署又は民政支署に於て之を還付す

第五條　前條の願書にて日本文を以て其の財產の品目性質、數量及價格並殘留の場所及月日を詳記し旅順に在りては同地民政支署に、大連其他に在りては民政署に提出すへし但し渡航者にして財產所有者の代理人なるときは本人の委任狀を願書と共に提出すへく同委任狀其他原文の提出を要するものは日本文の飜譯を添付すへし

前項の場合に於ける用語は巳むを得さるものは英語又は佛語と爲すことを得

第六條　殘留財產の調查處分及搬出に付ては總て軍衛の指揮命令を遵守すへし

第七條　殘留財產の調查處分若は搬出に要する滯在期限は一箇月を踰ゆるを得す但し時宜に依り民政長官は其期間を伸張することあるへし

第八條　前諸條の外渡航者は關東總督府管內に施行の規則命令を遵守すへきものとす

廣告

公示

一、厚皮燒屑　二十貫匁
一、短靴燒屑　二十組
一、冬襦絆袴下燒屑　四百貫匁
一、カタン糸燒屑　三百個
一、羅紗燒屑　五十貫匁
一、燒屑鐵具類　三十貫匁

右明治三十九年二月十日午前十一時牛家屯兵站司令部に於て競賣ス依テ本日ヨリ現品ノ縱覽ヲ許ス牛家屯縫靴工班ニ付テ見ルヘシ

明治三十九年二月一日

營口兵站司令部

募集公告

當局電話交換手募集す志願の者は(日本人にして年齡十六歲より二十五歲まで視聽力完全身体健康なるもの)自筆履歷書携帶當局へ出願す可し

營口軍政署電話局

解雇廣告

舊書記　渡邊德重

右ハ昨三十八年十二月二十八日解雇爾來本會ニ更ニ關係ナシ此段廣告ス

遼陽日本人會

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL ENGINEER.

Plans and specifications made to order.
ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

御料理　滿月　平野町一八二(電話一六二)

御料理　滿月支店　平野町(元都樓跡)

今般內地より撰り抜きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上候

店主　青木勝惠

廣告

一本社は滿洲及蒙古の事情を日本各地の新聞社通信社及團体若くは個人に通報し又日本の政治經濟社會上の狀態を滿洲各地に於ける團体若くは個人に通報するを以て目的とす

一本社は今般東京通信社と特約し最も敏速なる電報通信を以て帝國議會の情勢及諸般の出來事を報道せしむ在住邦人にして電報通信を購讀せんと欲する御方は至急御申込みあれ

元神廟街四十四

滿洲通信社

藝妓仲居新來御披露

此度新たに內地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候　草々

營口　高砂ホテル　(電話一四五)

一關內外盧漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號

大清通運公司　營口支店

高等旅館　彌生館

營口永世街

館主　宮下只七郎　(電四二)

歐米各國最新流行形

西海洋服店

永世街一四一(森病院三軒目)　(電話百二十七號)

讓り渡し

弊樓現在の家屋疊建具付の儘讓渡し度候に付御望みの御方は至急御來談被成下度候

二月四日　平野町　春帆樓

島田洋服店　營口郵便局東隣

同　支店　新民屯停車場前

Yano & Co.

矢野洋行

Telephone No. 137　電話一三七

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段ハ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

酒保品 諸雜貨 御商

神崎洋行

營口永世街甲百廿七號警務課前

▲其ノ外新荷着種々安價大勉强▼

正札 特別廉價

雜貨 賣出し

一婦人髮道具一切及
一化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一鑵詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々

質屋

永世街森病院隣

和清洋行

志田ます

風薬

登錄商標

止咳祛痰散

哮喘氣急、多痰喘血、咳嗽痰稠、各種喉症、胃痛胸痛、甚至座臥不安、飲食不進、或諸醫束手百藥罔效服用此散不論初起遠年立刻見效眞水火既濟之良方也

◎たんせき一切
◎肺病の特藥
◎ひきかせ

醫藥醫料器械賣
賣藥寫眞藥

營口永世街(中順泰東首)

大阪賣東瀛大藥房

澤龜は醇良にして風味高尚

並に 札幌ビール 朝日ビール

政府專賣口付紙卷煙 朝日 大和

酢 醬油 瓶詰樽詰

菓子 鑵詰色々

洋酒類 取次販賣

醸造發賣元

大阪府堺市九間町 本店
北海道小樽湊町 小樽支店
臺灣臺北街書院 臺北支店
臺灣基隆街石牌 基隆支店
臺灣臺南街下南河 臺南支店
北海道函館區辨天町 函館出張店
清國遼陽城內西街 遼陽出張店
清國大連監部 大連出張店
清國牛莊港東營口 營口支店

宅合名會社

◎フレノロジー

頭腦を觀察して身の上はんだんをなす

營口西濟門街廿三號李後氏宅の西半町

利生堂

會席料理 三日月

營口[illegible]前南へ

奉天日本旅館

瀋陽館

家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放全時ニ開業
奉天小西門外大街路北

萬事勉强乘車乘船好位置

營口中央市場前

旅館 東京樓

店主 熊田兼次郎 (電話百七十八番)

即席和洋料理 東京樓支店 (電話四十四番)

西洋料理仕出し御需應にず

滿洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店へ御來店アリタシ

遼陽停車場前 池上出張店

奉天 池上出張店

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライトはピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を醸造せり

スペシャルライトは高價を拂ひて元料を特選せり

スペシャルライトは其味輕くして高尚なり

醸造元 大阪朝日麥酒株式會社

營口發賣 關東公司雜貨部

發賣

標子 木板 料木

營口青堆子

清水寧木局

御旅館兼待合所

並にうどん、そば

今般大々的勉强を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候

牛家屯停車場前

若松家

各位樣

特別室落成披露

座敷は凡て日本式取扱至極鄭重に可仕候間陸續御來宿あらんことを伏て奉希上候

金城ホテル 旅館部

藝妓仲居 新來披露

今回藝妓酌婦無類の別嬪數十名件れ參り候間不相變御引立の程奉願上候

但し凡て純粹の江戸ッ子

金城館料理部

營口永世街

營口印字局

和洋會席御料理

一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に遊附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候

營口永世街二本町 日本館本店 (電話百三十番)

奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店

各位樣

大日本帝國醫料大學模範藥局御用

攝津灘石崎合資會社醸造

醇良清酒 澤之鶴

滿洲特約大販賣

清國營口西北街

裕和盛號支店

電話八十一番

裕和盛本支店所在地

○本日本長崎梅香崎
○支店清國、芝罘 旅順、鐵嶺、
○支店韓國京城、仁川、木浦、

裕和盛販賣品目

○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種

澤之鶴は既に定評ある天美錄

裕和盛は清商中日本通の張本

時刻

塘沽至北京　上六、〇〇　下一二、〇六
天津至北京　上一二、〇〇　下五、二〇
山海關至北京　上八、〇〇　下六、四五
天津至山海關　上六、二五　下六、二一
唐山至山海關　上六、二〇　下一、五八
山海關至營口　上七、〇〇　下一一、五五
溝幫子至新民屯　上三、〇五　下六、五七

奉天上り列車　奉天着午後　六、二三　發　七、二〇
天上り列車　二、〇六
奉天午前　一一、〇〇

驛名　發　着　時刻
大連　發午前　七、三〇
旅順　着　一〇、四九
營口　發午後　十一、二五
大石橋　着翌前　一二、二〇

宮門抄

初九日　醇王假滿請安　松壽景灃謝　備對引大臣　恩
召見軍機　劉汝驥遞封奏一件
皇太后　皇上本日巳刻升
乾淸宮德國使臣穆默　英國使臣薩道義　日本國使臣內田康哉　法國使臣呂班　和國使臣希特斯　義國使臣巴樂禮　美國使臣柔克義　俄國使臣璞科第　葡國署使臣阿梅達　比國署使臣博賚爾　奧國署使臣訥色恩　墨國代辦使臣阿遜密拉　覲見賀年

上諭恭錄

初八日奉
上諭龐鴻書奏查明被水田畝蘆洲請分別蠲緩遞緩錢糧蘆課等項一摺湖南南洲澧州安鄉等廳州縣本年夏間湖河泛漲濱湖隄垸間被沖潰低窪田畝芦洲悉被淹沒收成均形歉薄若將應徵錢漕芦課等項照常徵收民力實有未逮加恩着照所請所有南洲澧州安鄉等廳州縣均着照勘明被災輕重情形將應征錢漕芦課等項分別蠲緩遞緩以紓民力該撫即將所開詳細數目刊刻謄黃偏行曉諭務使實惠及民毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱之至意餘着照所議辦理該部知道欽此

初九日奉
上諭御史劉汝驥奏仕途蕪雜保舉過濫請除積弊一摺保舉一途原爲朝廷鼓舞人才之具惟必須眞知灼見確係勞績卓著名實相符方可登諸薦牘凡有保人之責者應如何詳愼遴選愛惜名器若如該御史所奏近來濫保各節種種情弊實堪痛恨嗣後各省將軍督撫等保荐人才務當力除積弊不得循私濫保以杜倖進至應如何嚴定限制之處着政務處會同吏戶兵等部妥議具奏欽此

論說

論製造爲軍事上之要需

今而欲雄飛於二十世紀大舞臺之上。保我黃族。固我禹迹。收我主權。雪我國恥。使羣虎眈眈。萬鬼睒々之碧其眼而黃其髮者。咸收其狠子之野心。而就我範圍焉。諒非一紙之書。三寸之舌。所能幸而邀之之權利。可斷然者。然則今日而欲達此目的。惟有純全完備之武備教育也。夫武備教育。有其形式焉。有其精神焉。有形式而無精神。不得謂之純全。有精神而無形式。不得謂之完備。要必以形式爲用。以精神爲體。夫而後內可以爲國民謀幸福。外可以爲世界蘄和平。泰西諸國。英以海軍著。德以陸軍聞。非不知兵爲凶器。戰爲危事。不戢自焚。昔人所忌。然欲以武裝爲其基礎。和平爲其歸宿。則不得不於軍火器械之形式上。求爲制勝於人而不爲人所制。昔日之前膛後膛。當者身碎。而火器之猛烈。猶不及今之無烟。彈鍊奮奮也。昔日之鐵衛鐵甲。遇者披靡。而海戰之輕便。猶不及今之戰鬪環攻。巡洋肆擊也。遠事不必論。近如日本東鄉提督所率艦隊。與俄魯提督麾下第二艦隊。比較對照。若艦數。若艦質。若駛海力。日殆二倍於俄。其不能敵者一。他如魚雷艇。驅逐艇日操其利便。靈機一振。電掣風馳。而俄則運動無序。未經熟練。其不能敵者二。加之主客異勢。勞逸異形。日則候往俟來。時放偵艦以窺俄艦之所在。其不能敵者三。對馬海峽。未戰以前。勝負之數。固已若燭照數計而龜卜。果而兩軍相見。俄艦遂爲日艦所擊。而殲滅之。而捕獲之。兩軍之或勝與否。全係乎軍械之或精與否。甚矣哉。製造爲當今之急。可不竭全力以精益求精哉。或者曰各國製造。日新月盛。雖其尙武精神使然。亦由於國力之富厚也。今中國司農仰屋。竭澤無魚。縱欲自製利器。其如經費之不足何。雖然中國之形式非不具。中國之精神不克見也。他如上海福建湖北。船政局。製造局。鎗礮局。設非一處創非一年。然非不足名非不美。而乃管理無人。借材異域。保其非我族類。能無異心乎。而製造一途。監督又未嘗學問。以主動者而受動於人。何式之宜於仿效。彼不之知。何法之宜改良。彼不之問。守數十年之舊思想。而不能出一新式。以駕乎西人之上。反以西人之最陳腐最笨拙最粗惡最窳脆鄙而不適於用者。視爲奇貨。落人之後。夫何足怪。然則精神不足。遂使形式而亦壞。精神固宜急振矣。精神不具。而形式徒存。則雖礮身鉅矣。壘臺固矣。火藥烈矣。然問其守禦之卒。則心靈手敏者無人也。命中及遠者無人也。審度形勢者無人也。此以却敵是物雖好。而終不能爲我用耳。則雖巡船捷矣。鐵艦猛矣。魚雷遠矣。然察其駕馭之士。則勇往果敢者無人也。識超力拔者無人也。歷練老成者無人也。此以攻戰是物雖譽。而終亦反資敵人耳。由是觀之。有精神而無形式。則揭竿衆石。猶可以振一軍。有形式而無精神。則大戟長鎗。不可以當一戰。有教育武備之實者。其可忽諸。一當仿法王泰理曼之法。令民間有能創一新器者。給以憑單。許其專利。二鐵政局。放求鍊鋼之法。當仿德人用壓重之法。以堅其質。三各局管理之人。當選用留學生之卒業於製造者。以杜外人挾制之弊。四仿德國通國皆兵之制。分爲常備預備。以禦外侮。五優待武員。不專重文職。使國民無貴文賤武之心。六令各省設武備學堂。訓以新法厚以軍裝。結以恩信俾人人有敵愾之志以上六策。認眞辦理。則器無不利。何至仰給於他人。士無不勇。何至柔懦如昔日。體用兼備。君民一體。雖欲保我黃族。固我禹迹。收我主權。雪我國恥。而立於二十世紀之大舞臺。碧眼黃髮者。卽不我許。其敢偪目劘心於支那大帝國乎。

中外要聞

● 兩宮深恐革命黨匪　兩宮召見軍機大臣諭及舉行憲政深恐革命黨匪爲患飭速妥議切實辦法再行電商各省督撫或出示解散或密察勦捕籌定抵制之策務期各省聯絡一氣勿使蔓延致滋隱患等語當日軍機大臣即電知安徽兩湖江蘇閩浙廣東四川各省督撫矣其餘他省亦未電

● 徐軍機面奏整頓警務　軍機大臣徐世昌面奏警務從嚴整頓無論官商士庶有違條均請照章辦理凡一二品實官亦不准抱告必親至署對質審判等語　兩宮已准所奏着警部遵照辦理

● 加稅免釐之實行　政府王大臣議定實行加稅免釐之事昨已電飭各省將軍督撫詳細參酌辦法各省釐卡內之章程詳細附奏以憑政務處核辦

● 內廷擬學習蠶桑　昨內廷消息　兩宮議及現在改良政治變法自强而深宮尤應諳習一切俾知稼穡之艱難即如每年春間　皇后親祀先蠶行躬桑禮立法至爲周備惟因相沿已久虛應故事實不足以開風氣即日飭內務府大臣採購蠶子桑秧諭令　皇后率領妃嬪實行學習養蠶之法俟作繭後再延教習肄學繅絲　又諭令　皇后妃嬪每日閱報讀書以期功歸實際勿得徒飾虛名等諭云云

● 伊犁將軍電請練兵處　伊犁將軍電致練兵處王大臣略謂該地瘠苦籌款維艱現因添練新軍舉辦一切需費甚鉅請速電催各省督撫設法接濟餉項以應急需

● 肅邸請訓北行　茲聞肅邸於正月十六日請訓二月初間同蒙古年班王公北行又聞　兩宮垂諭密令肅邸察京張鐵路隨時奏聞

● 政府注重西藏地方　訪聞政府以西藏地方須行新政恐駐藏大臣不能勝任與外務部磋議擬將裁撤駐藏大臣及幫辦大臣之職另派將軍都統駐紮拉薩札什倫布二處並各撥練軍若干駐紮西藏各要地以資保守而固邊防云

● 請簡大員辦理商約　外務部因盛宣懷氏病勢甚重已請政府派唐侍郎紹儀氏會同呂海寰氏在上海辦理中國與德法各國新訂之商約事宜

● 俄允賠款之消息　中國駐俄公使電達外務部云俄政府現已允付海參威華人所失資產之賠欵銀五百萬兩聞此次賠欵當由庚子年中國應賠俄國之賠欵上扣算云

雜報

● 營口硝礦局開設　營口硝礦自庚子亂後停辦而華洋商販任意私售今經華商劉雨廷稟商軍政部與倉長官協定章程准立分局已於去臘十三日開辦私販頓知斂跡語云風行草偃洵不誣也

● 油餅豆糧堆積　調查本埠內年前油餅豆糧堆積沿查合計共存豆油二百零四萬五千斤豆餅七萬五千片元豆九萬一千二百石雜糧三萬零三百石云

● 批換羌帖　年前本埠內諸商多有用爐銀批換羌帖以八錢三分八厘批換羌帖一元尋有八錢三分二厘者批定今春正月十五日或二十日而以爐銀羌帖兩相交付云

● 瑞兆豐年　今歲除夕夜中正當萬家焚香奠酒虔祀神佛之際而微雪薄佈瑞雪紛飄識者咸曰古云瑞雪兆豐年而除夕夜中天飄瑞雪益今歲農田必有豐秋云

叢談

● 茶香掃興　粤之潮人好品茗賭蕩吹嫖外以飲茶破產者不知凡幾家置一宜興壺如拳杯小稱之每茗瀹先以開水向杯及壺內外淋漓一過及加葉子甫入開水輒如傾去再泡始淺斟細嚼率以所謂潮州傑者敲火汲山泉躬自烹弄不假婢僕謂之工夫茶潮州無地不然抑幾無人不然然非眞內行者未可與作茶經之談判也海縣某生至省隨身携茶具僦居其寓省友某踵門遠訪時値炎蒸竹未生凉梅難止渴生如法親自煑茗以餉之乃連泡數回某都如西江之一口吸盡生猶以爲知味也因舉葉爲鐵羅漢水乃九龍泉以相評論某漫應之曰色香味都佳然僕所不忍釋手者尤喜其熱頃在友人處飲半樽甚麼紅白荷蘭水惟僕素胃寒且性頑固與外洋物無緣終覺無甚好處得此熱茶庶相如消渴病可立愈矣生知不可與言翌日於其再來呼童赴市買百寶凉茶一大罐回置棹上任某牛飲而去

豫報

昨日の氣温
最高温度廿六度八　最低温度零下度九一
昨年との比　高四度九　低五度二

NEWCHWANG, WEDNESDAY, FEB. 7, 1906.

THE "VICTORIA ROAD INCIDENT" (Part I).

We have hitherto refrained from commenting on events at Tientsin other than have directly concerned us. However, the recent "Victoria Road Incident" that has apparently grown up into an absorbing topic not only of the local press, but of the British colony in general, has induced us to make a departure by venturing a remark from a Japanese viewpoint, as a disinterested outsider.

It seems to us only natural that the high spirited Briton should insist upon upholding "British prestige and discipline among Chinese policemen in the service of the B.M.C." It appears not in the least more surprising that, from a worthy desire to "express their profound regret that the stupidity and self-importance of a Municipal servant had disturbed the courteous and friendly relations which had existed for over forty years between the Viceroy and his predecessors on the one hand and the Council on the other," the B.M.C. should have tendered an apology as becomes a gentleman who owns a fault of his own or of his authorized agents; and also that they should have at the same time "asked the Viceroy," by way of reciprocal courtesy, "to extend his clemency towards the man," who has been dismissed and given up. It was no less fitting that the B.M.C., in hopes of preventing a recurrence of so unpleasant an episode, should have requested the Yamen authorities to give previous notice in case of the Viceroy's intended visit to the Concession in future, in order to prepare them for his reception. Then again, the Viceroy himself was not at all unreasonable in demanding the surrender of the Chinese constable in British employ into his hands for punishment upon a formal assurance by the Customs Taotai to show leniency. For, "the Viceroy, having seen from his carriage window the policeman strike at the horses as the cavalcade went past, with his baton, could not but consider the constable's action as a personal affront to himself."

As may be seen at a glance, there are three distinct, independent points from which to view the affair in question. One is from the position of the British ratepayer who may hold on with good reason to his belief that a British public servant, when guilty of an abuse of his authority, be he a Briton or a Chinese, is amenable only to British jurisdiction. A second is from the situation of the B. M. C. who, as the respsesentative authority of a British Concession on Chinese soil, had to weigh carefully the consequence of the delicate complex case in all its bearings and could not dispose of it, with any fair degree of good sense and broad justice, on such simple lines as have been shaped out by the exacting tax-payer. The third is from the ground of the Viceroy who, while abroad on an official call in state as the representative of H.I.C.M. the Emperor, met with an affront in the streets at the hands of a humble Chinese subject, although a policeman in British service. We may hazard a guess, labouring under a vague notion of what the existing Chinese penal code is like, that the offence, if committed outside the foreign concession limits, by a native other than in the employ of foreign authority, demands capital punishment, its nature being little short of treason. The Viceroy certainly could not, under the circumstances, overlook this serious aspect, if he would. He had to reckon with a demoralizing effect upon the stupid offender as a Chinese subject, in particular, and, like the circle ever widening over the surface of the still water disturbed by a pebble thrown, upon the ignorant, self-centred Chinese masses in general, throughout the loose-jointed giant Empire, in case the offending constable were to be left to the toils of British discipline, exactly as the ratepayer would have it. He would have nothing to dread, if the Chinese were as enlightened and patriotic as the British people, whose respect to authority or allegiance to the State is not a bit to be shaken, on account of a thick-headed fellow-countryman, humblest in foreign service, once lifting his commanding baton, in overzealous enforcement of his instructions, against the inviolable sovereign authority. The Chinese masses, as they are, are apt to look at the superficial phase alone, little caring to grasp the idea, or more correctly speaking, quite incapable of appreciating the fact that the Chinese policeman is a British public servant and, as such, stands answerable for his misconduct to British law, but to no other.

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一） 店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街十一號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

御料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

料理 醉花園 旅館 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

旅館 金城ホテル 永世街百六十六號

料理 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街

さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

和洋御料理 第二東京館 元神廟街 店主 松田平四郎

東京一流 かき飯

御料理 柳亭 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 並ニ溫泉 一力 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 松月亭 本店 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 滿洲ホテル 支店 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館 料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉

御料理 會席 菊水館 主任 朝枝園挹

旅館 西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

旅館 料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理 會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 凱旋亭 色々應御注文 主任 古谷庄太郎

旅館 御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

爲替相場（二月六日）

上海は百圓に付六十七兩二錢五分

天津向は百圓に付一百〇八五圓五十錢

日本品最近物價表 加藤洋行調査

菊正宗 三斗九舛入 銀二十圓

麒麟正宗 四斗四舛入 同二十七圓

鑵詰 ラツキヨ 四打入 同十三圓

辛子漬 五打 同十四圓五十錢

フキ 四打 同九圓五十錢

全 同八圓

驚ミルク 全 同十八圓

石炭（飯塚工程局） 上等塊炭 一噸ニ付 銀十八圓

MANCHURIA DAILY REPORT.

Subscription 4 cts. a copy

80 cts. per month.

本紙定價

一枚ニ付 銀四仙

一ケ月前金 銀八十仙

半ケ年前金 銀四弗八十仙

一ケ年前金 銀九弗六十仙

會席 御料理 玉家 主任 西野治三郎

御料理 會席 來々亭 主任 石田清

料理 鋤焼 喜樂亭 營口元神廟街 亭主 元權吉

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般

營口綏定門街 ブリツジ商會東 喜川鐵工場

發賣 料木 標子 木板

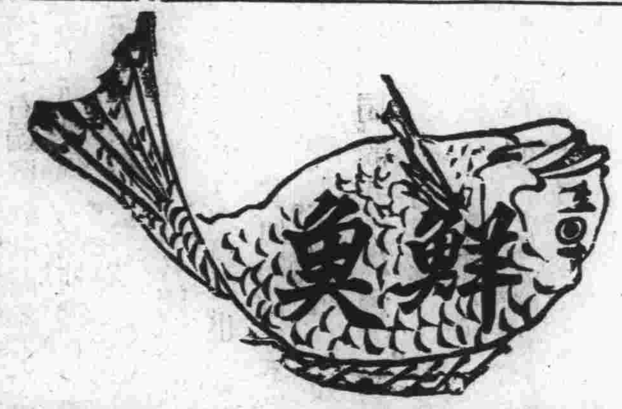
清國營口二本町二五五號

鹽川商會

主任 鹽川峰吉（電話一三六番）

遼陽小西門內 鹽川商會

外に建築用材
電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本餘
北海道產松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也



弊店儀雜貨專業之處今般業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の御小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候 敬具

營口南永世街百廿七號 森屋洋行

大連大山通り二丁目 仝支店

遼陽西門外 代理店 林洋行

奉天小西門外 代理店 米田洋行

御旅館 天津 駐屯軍御用 並西洋料理 芙蓉館（電話四十一番）

北京 扶桑旅館 東單牌樓大街路西 客室清潔料理鮮新

御旅館 豐陽館 上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米瀛船乘船取扱
館主 米田藤吉

軍票騰貴致候に付弊行正札價格より五歩引を以て御用達可申候

銘酒菊正宗新着!!

尚最上日本白米及マッチ新荷着仕候

雜貨商 加藤洋行（營口電話八十番）

本店 天津日租界

支店 營口 北京 大阪

出張所 遼陽

營口元神廟前 飯塚工程局材料部（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、砕石、煉瓦等
一日本石炭數種

雜貨 醬油 味噌 清酒

營口西北街 阪神組

御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木灰
○亞鉛板 ○洋釘
○干塩魚 ○石炭

喜久洋行 永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル

大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町